

「生出小学校福祉学習」報告

令和7年9月30日

令和7年9月26日(水)に、生出小学校の4年生27名を対象に福祉学習を行いました。講師として仙台市視覚障害者福祉協会 副会長であり、仙台市障害者相談員の嶋原 真一 相談員にご協力いただき、講話と視覚障害体験を実施しました。

はじめに、嶋原相談員より、普段の生活や視覚障害についてお話をしていただき、児童からの質問にも答えていただきました。児童からは、「どうやってお風呂に入っているのか」「寝る時はどうしているのか」「料理はするのか」等、子供らしい素直な質問が多くありました。また、嶋原相談員が普段から使用しているスマホのアプリを紹介していただき、実際に使用している様子を見せていただきました。今はスマホ等のデジタル機器が発達しているから、昔に比べて便利になっているということを話されていました。

次に、児童に点字盤と点筆、点字の見本を貸していただき、自分の名前を打ってもらう点字体験を行いました。

初めて点字の読み方、打ち方を知った児童ばかりで、見本を見ながら自分の名前を一生懸命に打っていました。出来上がった自分の名前を嶋原相談員に読んでもらい、正確に打てた、間違っていたと児童たちは一喜一憂していました。点字体験の後、少し時間に余裕があったため、目をつぶってのじゃんけんも行いました。見えない状態でどうすればじゃんけんが出来るのか、児童たちは話し合いながら体験していました。目が見えないと困ることはあるけれど、工夫をすれば出来ることがあるという嶋原相談員の言葉を、児童たちは体験出来た機会になったと思います。

嶋原相談員の話の中で、障害のある無し関わらず、困っている人に声をかける勇気と優しさを持った人になって欲しいという言葉が印象に残りました。

障害当事者である嶋原相談員の言葉は、児童たちの心に響いたのではないかと思います。

今回の福祉学習が、障害のある人の生活を知るきっかけとなり、住みやすい街づくりに向けた取り組みへとつながっていくことを期待します。



